

2014(平成26)年度 海外留学体験報告書

韓国 慶熙大学 留学
文芸学部 文学科

1. 留学中の活動詳細

私は2014年の2月末から12月末までの10ヶ月間、慶熙大学のソウルキャンパスにて留学をしました。

前期は国際教育院の語学堂で韓国語の勉強をしました。平日の午後1時から5時まで50分×4コマの授業がありました。私はレベル分けテストの結果、上級クラスに入る事ができました。授業の内容はリスニング、読解、作文や発表などが中心です。後半に入ると討論などの時間も増え、ただ韓国語を学ぶというより韓国語で自分の意見を言ったり、思考したりする練習をします。そして韓国語能力試験という試験の対策などもしました。基本的に語学堂は外国人が韓国の大学の授業を聞く前に勉強する場所です。私も後期に学部の授業を受けたのですが、語学堂で勉強したことを活用でき、基礎的な語学力が形成されたように思います。

後期は学部授業を聞くことになっており、英語学を専攻しました。授業は4教科受講し、そのうち専攻の授業が3科目で残り1つは基礎科目でした。授業申請方法は、専攻科目は国際交流処に受講申請をして教養科目や基礎科目は生徒全体の申請変更期間に申請を行います。専攻の授業は比較的簡単に申請できますが、その他は思い通りに取れない場合が殆どです。英語の授業は「英語学入門」、「英語学読解」、「英文学入門」の3つでした。全て説明などは韓国語で行いますが、教科書やパワーポイントは英語で書かれているといった状況でした。私にとってはどちらも外国語であるため、授業中はあらゆる言語を駆使して集中しました。基礎科目は「글쓰기(글쓰기)」という授業を受講しました。私が受けたものは外国人専用の講義で、文章を書く力を伸ばすための作文や読解の授業です。この授業では色々な話を読んで自分の話も書いて、そして他人に評価してもらうことで上手な文章の書き方を少しは身に付けることが出来たと感じています。前期後期共に進度に遅れないように休むことなくしっかり受講しました。

次に、私は学外の寮に住んでいました。学外の寮に住む交換留学生は非常に少ないです。しかし、私が住んでいた寮では自炊が出来たのでとても便利でした。始めに住んでいた寮が突然閉鎖した関係で一度引っ越しました。ルームメイトも3度代わりましたが、特に嫌なこともなく住みやすい環境でした。約束がある時以外は寮で自炊をしました。ルームメイトと一緒に夕食の準備をしたり、近くのマートに行ってお買い得なものや旬の食材を選んだりしました。部屋ではお互い日本人なので、どうしても日本語で話してしまいます。だから、外で遊ぶときは積極的に韓国語を使いました。日韓交流のサークルや留学生全体の交流会などにも参加し、様々な国の人と韓国語で会話しました。その他生活面では、私はアレルギーやアトピーがあるので始めは何から何まで体質に合わず苦労しました。しかし持参した薬を使い、健康面に気をつけることで病院に掛かることもなく健康に過ごすことができました。日本には一度も帰りませんでした。

た。しかし母親と姉が数回遊びに来てくれたのでホームシックにはなりませんでした。学校の友達も韓国に来たときに会ってくれたりして楽しく過ごせました。

経費は、寮費を除く生活費に毎月30～40万ウォン必要でした。他の交換留学生に聞いてみると50～60万ウォンは使っているという人が多かったため私は比較的少なく済ませられたのではないかと思います。お金は送金すると手数料がすごく高いので韓国に行くときに現金20万円ほどを持っていきました。そこから前期の寮費と生活費を払いました。そして残りの寮費や生活費は、家族が旅行にきたときに少しずつ持ってきてもらいました。遠出をし、たくさんの経験をしたかったことも事実ですが、実家が経済的に厳しい状況なので出来る限りの節約をして過ごしました。

2. 留学の成果について

留学で得られた成果は大きく3つあります。まず1つ目は語学力です。語学堂で文法などを徹底的に勉強し、色々な文章を聞いたり書いたりすることで韓国語の基礎をしっかりと固めることが出来ました。語学堂でそういった勉強を沢山した成果としては、韓国語能力試験という検定で一番高い級である6級に合格しました。私はこの試験に合格したことは語学堂での勉強のおかげだと思っています。そして、10ヶ月間一度も日本に帰らずに韓国で生活していたので実用的な韓国語も身に着きました。それを実感できたのは、家族や友達が遊びに来たときです。今まで旅行で韓国に行ったときや、語学研修の時はあまり思うように韓国語で話すことが出来ませんでした。そのため、韓国語を使って人助けをできたことはありませんでした。しかし留学生活に慣れてきて、姉や友達を案内し、お店で通訳や交渉をしたときに韓国語が身に着いたという実感を得られました。日本に帰国した日も、駅で困っている韓国人の方がいたので声をかけ、手伝わせていただきました。今までは自信が無くて声をかけることをしませんでした。留学をしてから自分の韓国語能力に自信を持てるようになりました。後期は英語の学習が主でしたが授業自体は韓国語で行うため、韓国の大学というものを体感することも出来ました。次に生活面で大きく成長できました。私は今まで実家を離れて暮らしたことも無く、家事なども母親に頼っていました。そのため韓国に行き、寮で暮らしていくと初めてのことばかりですごく戸惑いました。洗濯や料理はもちろん、掃除や生活費の工面などもしなければいけないので始めは戸惑いながらしていました。しかし次第に慣れていき、家事なども人並みに出来るようになりました。留学をしたおかげで少し自立できました。日本に帰ってきてからも料理など家事をして、母親の負担を減らすことが出来ているのではないかと思います。最後に、大切な親友が出来たことです。彼女は日本語を勉強している韓国人です。この留学期間中は困っているときに彼女に数え切れないほど助けてもらいました。そしてまた、彼女の日本語の勉強や留学の準備などを助けたりもしました。彼女とは楽しい話から、日韓の話など国際的な話まで出来る良い友達です。彼女だけではなく、私はこの留学を通して様々な人に出会い、大切な人たちがたくさん出来ました。これは留学で得られたものの中でも本当に貴重なことだと思います。

3. 反省点について

まず留学の後半にかけて韓国語を使う機会が減ってしまったことです。語学堂のころは話すことを中心に韓国語の勉強をしていたため、常に韓国語で発言をしていました。時間に余裕もあったので、サークルの集まりに参加したり語学堂のクラスの外国人と出掛けたりと学習面以外でも韓国語で話す機会がとても多かったです。しかし、後期に入ると授業は聞く中心になり残りの時間も勉強のために部屋にいることが多かったせいで前期に比べると韓国語で話す機会が少なくなり、惜しかったです。次に、色んな場所に出掛けることができなかったことです。これは仕方ないと言えば仕方ないのですが、留学に行く前に行きたい場所、やりたい事などをもっと細かく考えておくべきだったと思いました。そして、心残りもあります。それはボランティアなどの活動に参加できなかったことです。韓国でボランティアをすることは目標のひとつでした。しかし、自分のことに精一杯でボランティアに参加することが出来ませんでした。理由としてはそれが一番ですが、環境的にもあまりボランティアを見つけやすい環境ではありませんでした。私は英語学部だったので日本語を必要とするようなボランティアがなかなか見つからず、キャンパス内にも日本語学科が無いため言語交換なども少ししか出来ませんでした。でも、自分でもっと努力すれば見つけることが出来たと思うので、反省すべき点です。

4. 海外留学をこれから目指そうとする学生、ならびに協定校への留学が決定した学生へのアドバイス

これから留学を考えている皆さんには、まず韓国語をしっかり勉強することが大事です。慶熙大学を目指している学生は特に、来年度から語学堂に通えなくなるために留学する際資格が必要になってきます。韓国語能力試験3級が必要となるので、ある程度の韓国語力は身につけておくべきです。私は学校の授業を中心に、いろんなアプリケーションを使った学習や韓国人と会話することで学んでいきました。大学にある日韓交流サークルでは韓国人留学生とも交流が出来るため積極的に参加して韓国語で話したり、気になること等を教えてもらったりしていました。後は、留学をしてきた先輩方にお話を聞くことも良いと思います。私も実際に留学をしてこられた先輩方に色々とお話を聞かせていただき留学生活のイメージ等を膨らませていました。もちろん韓国語の勉強だけでなく、普段の授業もしっかり受けないとはいけません。協定校の中には学校での評点などが条件とされている大学もあります。私が留学に応募したときは定員よりも応募人数が多かったです。来年度の学生は定員割れしていたようですが、必ずしも全員が行けるわけではないので日ごろから勉強はしっかりとしておくべきです。次に学校を選ぶことも留学する際にはポイントとなってくると思います。自分のやりたいことが出来る場所を探すことが重要ですし、私の場合はアトピーもあるので気候や環境についても気を遣いました。協定校ごとにそれぞれの魅力があると思うのでよく調べると良いと思います。

協定校への留学が決定した皆さんには留学中に必ずやっておきたいことをメモしていくことをお勧めします。夏休みや休日などを有意義に使うにはしっかりと計画を立てることが重要になります。学部の授業は発表や課題が多いため、休みの日も勉強に追われることがし

ばしばです。そのため勉強のスケジュールなどを立てていくことで留学生生活を心置きなく楽しめると思います。具体的なアドバイスもいくつかあります。まず、外国人登録証を韓国に着いてから申請しに行かなければ行けません。申請はとでも込んでいて並ぶので私はピーク時から少しずれたときに行きました。しかし携帯を購入する時を始め、様々な場面で外国人登録証が必要になるので時間に余裕がある時に取得しに行くことをお勧めします。そして普段服用している薬などは必ず持っていくべきです。韓国の風邪薬などは日本のものと強さなどが違うと言われているので自分に合ったものを持っていったほうがいいです。その他では、家計簿などをつけるべきだと思います。最近は携帯のアプリケーションなどで簡単に管理することが出来るのでとても便利です。こういった細かい事はもちろんですが、一番大切なことは現地で積極的に様々なことを体験して、挑戦することだと実感しました。私も留学中に貴重な体験をたくさんしました。1年という期間は長いようで短いです。それは帰ってきてからより感じることもあります。大学生の間に交換留学生として1年間留学が出来ることはとても素晴らしいことであり、有難いことです。貴重な体験をより充実したものにするために、自分なりの留学生活を送り最高の経験をしてきてください。